

みんなの党 2011年運動方針

2011年1月29日

1. 民主党政権を一刻も早く解散総選挙に追い込み、真の平成維新を実現。
国民との約束を次々と破り、「戦略なき腰砕け外交」と相変わらずの「選挙目当てのバラマキ」を続ける民主党政権を、一刻も早く解散総選挙に追い込み、真の政権交代、平成維新の実現を目指す。
2. 来るべき総選挙には100人以上の候補者を擁立。
そのためには、次期衆院選挙で、少なくとも100人以上の候補者を擁立し、自民党と民主党を大幅過半数割れに追い込み、政権奪取のための絶対的キャスティングボートを握る。
3. 4月の統一地方選には500人以上の候補者を擁立。
また、全国にみんなの党の草の根を生やし、党の基盤作りをするためにも、統一地方選には500人以上の候補者を擁立する。特に、都市部だけでなく地方の候補者発掘に努める。
4. アジェンダに基づく議員立法中心の提案型政治を展開。
先国会では、8本の議員立法、3本の決議案を提出したが、引き続き、今年の国会でも、「批判のための批判」ではなく、アジェンダに基づく議員立法を積極的に策定、提出することで、国民が望む前向きな提案型の政治を展開する。
5. 財務省主導の「消費税増税一直線路線」を阻止。
「社会保障と税の一体改革」の名の下に、国会議員や公務員が「身を切る改革」もせず、無駄遣いの解消や埋蔵金の発掘等も不十分なまま、ひたすら、財務官僚が主導する菅政権の「消費税増税一直線路線」を阻止する。我が党は「増税の前にやるべきことがあるだろう」を旗印に、「脱官僚」と「4%経済成長」を最優先する。